

# 令和3年度 事業報告書



1 救護活動 P3

---

2 国際活動 P7

---

3 医療事業 P8

---

4 看護師養成事業 P10

---

5 血液事業 P11

---

6 救急法等の講習 P12

---

7 赤十字ボランティア P15

---

8 青少年赤十字 (JRC) P16

---

9 広報活動 P17

---

10 会員の加入促進と活動資金の募集 P18

---

11 令和3年度一般会計歳入歳出決算概要 P20

---

# 岡山県支部 令和3年度 重点項目

## 災害救護体制の整備

救援物資、救護資器材の輸送能力の向上を図るため緊急走行が可能な新型の災害救援車両（トラック）を整備しました。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度は中止した救護員の訓練・研修を感染対策に十分配慮し実施しました。



## 防災・減災の知識・技術の普及促進

他者との接触や3密を避けるなど感染対策に十分配慮したうえで赤十字防災セミナーを開催しました。

また、岡山県主催の「大学生災害ボランティア研修会」にて同セミナーを開催し、若年層に対しても防災・減災の知識・技術の普及を図りました。



## 地域包括ケアの推進

コロナ禍における心身の機能低下を予防するため、ココロとカラダを元気にする動画「クロス体操」を制作し、講習等において活用することで地域の方々の健康維持・増進に取り組みました。

また、いのちと健康、尊厳を守るための各種講習の一部を、ICTを活用した「オンライン講習」として開催しました。



# 1

## 救護活動

日本赤十字社が行う災害救護活動は、医療救護やこころのケア、救援物資の配分、血液製剤の供給、義援金の受付など多岐にわたります。これらの活動は、赤十字の理念に基づき日本赤十字社独自の判断で自主的に行われますが、災害救助法や災害対策基本法、国民保護法においては指定公共機関として、国や地方公共団体への協力も義務付けられています。

令和3年度は岡山県支部が救護班を派遣した災害はありませんでしたが、新型コロナウイルス感染症への対応として職員を医療機関等へ派遣し、医療支援を行いました。

### ●新型コロナウイルス感染症への対応

岡山県からクラスター対策班現地医療提供チームの指定を受け、新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生した医療機関や高齢者施設等における医療支援のため、84日間、延べ125人の職員を派遣し、患者情報や時系列情報等の記録や電子化などの活動を行いました。



### ●救護班の編成等

災害時、ただちに被災地に出動し被災者への救護活動が行えるよう、常備救護班9個班（岡山赤十字病院8個班、岡山赤十字病院玉野分院1個班）を編成するとともに、災害対策本部要員、DMAT 要員、薬剤師、血液搬送要員等を任命し、「岡山県支部災害救護業務計画」を基本とした体制を整備しました。

また、災害時における医療ニーズを把握し、災害医療救護関係機関との救護班の活動調整等を行う日赤災害医療コーディネートチームを2チーム編成しました。

### 救護員の任命状況（人）

	日本赤十字社 岡山県支部	岡山赤十字病院	岡山赤十字病院 玉野分院	岡山県赤十字 血液センター
常備救護班		8個班	1個班	
医師		8	1	
看護師長		8	1	
看護師		16	2	
主事		16	2	
災害対策本部要員	15	10		9
DMAT 要員	4	29	2	
薬剤師		7		
血液搬送要員				2
日赤災害医療 コーディネーター		2		
日赤災害医療 コーディネートスタッフ	2	4		

## ● 救護員の訓練・研修

救護員の救護技術の向上を図るとともに他機関との連携を密にするため、次の訓練及び研修会を行いました。

訓練・研修会名	実施日	内容
日本赤十字社中国・四国ブロック各県支部合同災害救護訓練	令和3年11月12日～13日	海上保安庁との輸送訓練、避難所での巡回診療等
救護員研修（基礎）	令和3年4月17日	赤十字の災害救護活動、トリアージ、救護所設営、救護所シミュレーション等
こころのケア研修	令和3年8月1日	概論、被災者へのこころのケア、救護員へのこころのケア等
救護員研修（情報管理）	令和3年10月3日	広域災害救急医療情報システム（EMIS）、無線、衛星電話の実習等
救護員研修（実践）	令和3年11月28日	災害時の食と栄養、災害診療記録、避難所活動シミュレーション等
日赤災害医療コーディネーターフォローアップ研修会	令和4年3月13日	日赤災害医療コーディネーターチーム体制、地域保健医療調整体制へのマネジメント等

## ● 被災者の支援

県下での火災等による罹災者に対し、地区・分区を通じて救援物資及び弔慰金をお届けしました。

### 救援物資等配分の内訳

種類	交付基準	配分数
毛布	1人につき1枚	117枚
緊急セット	原則1世帯（4人分）につき1セット	53セット
バスタオル	1人につき1枚	103枚
弔慰金	死亡者1人につき20,000円	240,000円

### 罹災世帯数等

区分	世帯数
全焼	51世帯
半焼	6世帯
全壊	0世帯
避難	0世帯
その他	6世帯
計	63世帯

死亡	12人
----	-----

## ●義援金・救援金の受付

令和3年度における受付状況は以下のとおりです。

### 義援金受付状況

名称	件数(件)	金額(円)
平成30年7月豪雨災害義援金	126	31,281,402
令和2年7月豪雨災害義援金	47	730,639
令和3年2月福島県沖地震災害義援金	12	66,489
令和3年島根県松江市大規模火災義援金	5	32,466
令和3年7月大雨災害義援金	39	1,262,241
令和3年台風第9号等大雨災害義援金	12	96,282
令和3年8月大雨災害義援金	22	682,986
令和3年長野県茅野市土石流災害義援金	27	475,636
令和4年3月福島県沖地震災害義援金	4	55,000

### 救援金受付状況

名称	件数(件)	金額(円)
無指定海外救援金	5	35,002,452
中東人道危機救援金	2	20,000
バングラデシュ南部避難民救援金	2	20,000
2021年ハイチ地震救援金	4	31,949
アフガニスタン人道危機救援金	5	70,400
トンガ大洋州噴火津波救援金	20	232,777
ウクライナ人道危機救援金	255	11,418,129

## ●災害救護用資器材の整備

災害時の救護活動に欠くことのできない資器材の整備、充実を図り、災害時に有効に活用できるよう、常に点検を行い万全を期しています。

令和3年度は次の資器材を整備しました。

品目	整備数
血圧計	10
血中酸素飽和度測定器	10
安全靴	110
大型テント用カーゴ台車	6



●地区・分区資器材等整備事業

地域の災害対応能力強化のため次のとおり資器材等を配備しました。

品目	配備数	配備先
災害救援車両	9	玉野市地区、高梁市地区、新見市地区、瀬戸内市地区、赤磐市地区、和気町分区、早島町分区、久米南町分区、吉備中央町分区
倉庫	19	岡山市地区本部（5棟）、倉敷市地区（4棟）、玉野市地区、井原市地区、瀬戸内市地区、赤磐市地区、美作市地区、和気町分区、矢掛町分区、勝央町分区、奈義町分区、吉備中央町分区



●臨時救護の実施

新型コロナウイルスの感染防止のため、各種イベントが中止となったことにより、医師・看護師・主事等で編成した救護班やボランティアの派遣はありませんでした。

●防災教育事業「赤十字防災セミナー」の開催

災害からいのちを守るため、地域コミュニティにおける「自助」「共助」の力を高めることを目的に、平成29年度から本格的に取り組みを始めたもので、町内会・自治会等へ以下のとおり指導者を派遣しました。

カリキュラム名	内容	件数 (件)
災害エスノグラフィ	過去の大規模災害の被災者の経験談を再編集した読み物を通じて災害を追体験し、被災の具体的なイメージを理解する。	1
災害への備え（講義）	災害から命を守り身の安全を確保するために平時から準備すべきことを理解する。 避難所等で感染症から身を守るための基本的知識を学ぶ。	10
計		11

# 2

## 国際活動

赤十字では、国際・国内紛争による被災者への医療や食料等の救援を実施するほか、ジュネーブ条約に基づいて、戦闘に直接参加していない負傷兵や一般市民の保護にあたっています。

また、自然災害等によって被害を受けた被災地への復興支援や防災を通じた地域の基盤づくり等に取り組んでいます。

令和3年度において岡山県支部は、以下の事業を実施しました。

### ●インドネシア・コミュニティ防災強化事業

災害多発国であるインドネシアに対し、災害対応能力の向上や、防災教育に精通する教職員の育成のために資金的援助を引き続き行いました。



©インドネシア赤十字社

### ●アジア・大洋州給水・衛生災害対応キット整備事業

アジア・大洋州で洪水やサイクロンなどの災害に頻繁に見舞われる国や地域における安全な飲み水の確保や清潔な簡易トイレの設置など、衛生環境を整備するための資金的援助を平成22年度以降引き続き行いました。

### ●「NHK 海外たすけあい」キャンペーンの実施

世界各地で紛争や自然災害、感染症などに苦しむ人々のため、令和3年12月1日から25日の期間でNHKと共同で募金活動を実施しました。

名称	件数(件)	金額(円)
令和3年度(第39回)「NHK海外たすけあい」	747	9,083,011



# 3

## 医療事業

岡山赤十字病院（500床）、岡山赤十字病院玉野分院（83床）、岡山赤十字老人保健施設玉野マリンホーム（100床）において、高度急性期医療をはじめ、慢性期医療から回復期まで特色ある医療事業を展開しています。

令和3年度も各施設においては、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けながらも公的医療機関として、地域の安定的な医療体制を確保するため、地域医療の連携推進を図りながら、地域からの信頼に応えた安心・安全な医療を提供しました。

### ●岡山赤十字病院

県南東部医療圏の中核病院として、令和3年度においても救命救急センターとしての救急医療、地域がん診療拠点病院等の先進医療、基幹災害拠点病院としての災害医療・救護など、公的医療機関としての役割を担いました。

患者数(人間ドック・健診を除く)

入院	延患者数	137,172人
	1日平均	375.8人
外来	延患者数	265,859人
	1日平均	1,103.1人

新型コロナウイルス感染症については、救命救急センターに発熱外来（帰国者・接触者外来）を設置し一般外来と区分したほか、「重点医療機関」として岡山県から要請を受け、入院受入のため病床を確保し患者を受け入れました。

そして、外来入口での手指消毒、マスク着用の呼びかけ、検温の実施や飛沫防止パネルの設置、病棟における面会制限を行ったほか、職員の健康管理の徹底、職員間の3密（密集・密接・密閉）の回避等に努めるなど職員一丸となって取り組み続けており、令和3年度の患者数は入院・外来とも昨年度より僅かながら増加しました。

また、さまざまな企業や個人の方から医療材料や食品のご支援、あたたかい応援メッセージをいただきました。



### ●岡山赤十字病院玉野分院

内科・リハビリテーション科・皮膚科・整形外科に加え、専門外来として呼吸器内科、循環器内科、糖尿病内科において診療を行い、岡山赤十字病院との連携により急性期及び慢性期の一貫性のある医療を提供しています。

令和3年度も、近隣の医療機関や介護施設からの紹介による入院や終末期医療を希望する患者の受け入れにもあたり、併設する老人保健施設とともに、在宅復帰を目的とした医療や介護サービスを行い在宅医療の推進にも努めました。

## 患者数（人間ドック・健診を除く）

入院	患者数	22,570人
	1日平均	61.8人
外来	患者数	15,635人
	1日平均	64.9人



## ●岡山赤十字老人保健施設玉野マリンホーム

病状が安定した高齢者等の心身の自立を支援し、介護機能を持った包括的ケアサービスを提供する役割を担い、高齢者等の家庭復帰を目指しています。

このため、ショートステイや通所リハビリテーションを提供し、併設する居宅介護事業所での介護保険制度におけるケアマネジメントにより、家族・介護者の介護負担軽減に努め、利用者のニーズに沿ったサービス提供を行いました。

また、在宅復帰をより強く推進するためスタッフの増強等をはかり、令和3年度より在宅復帰超強化型施設へと移行しました。

## 利用者数

入所	入所者数	29,797人
	1日平均	81.6人
通所	通所者数	4,875人
	1日平均	20.2人



## ●「赤十字健康講座」等の開催

広く県民の健康維持・増進を図ることを目的に、赤十字各施設が連携し、医師や看護師等が岡山赤十字病院で講演を行う「赤十字健康講座」、地域からの要望により医師等を派遣し講演を行う「健康講演」を毎年企画しています。

令和3年度の健康講座については昨年度と同様に新型コロナウイルスの感染拡大により中止を余儀なくされた講演もありますが、感染対策を徹底し可能な範囲で開催しました。健康講演の開催はありませんでした。



## 4

## 看護師養成事業

## ●岡山赤十字看護専門学校

赤十字の理念である人道を基調とし、豊かな人間性を育み、保健・医療・福祉の分野をはじめ、災害救護の現場で活躍できる基礎的能力をもった看護実践者を育成することを教育理念としています。

令和4年度入学生からスタートする新カリキュラムによる教育に向け、人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として幅広く理解する能力、人間関係を形成するためのコミュニケーション能力、臨床判断を行うための基礎的能力が養われるようなカリキュラムになるよう検討を行いました。

また、引き続き、新型コロナウイルスの感染防止を徹底しつつ、ハイブリット型授業を展開し、学生の学修の補完に努めました。



### 学生数

令和4年3月31日現在

1年生	38人
2年生	39人
3年生	42人
計	119人



# 5

## 血液事業

岡山県赤十字血液センターでは、血液を提供していただける方を募集し、その血液を採取し、血液製剤として、治療を必要とする患者のため、医療機関に供給する血液事業を展開しています。採血業者及び製造販売業者としての責務である血液製剤の安全性の確保・向上及び安定供給の確保並びに献血者の保護に努め、確実な血液事業の推進に取り組んでいます。

令和3年度における岡山県の献血者数は、79,528人（対前年度比99.6%）、前年度に比べ307人減少しました。

献血種類別では、400mL 献血者が54,128人（対前年度比103.1%）、200mL 献血者が877人（対前年度比74.3%）、成分献血者が24,523人（対前年度比93.7%）でした。

また、献血ルームや献血バスにおける飛沫防止パネルの設置や除菌の徹底、密を避けるために複数回献血クラブ「ラブラッド」を活用した予約献血を呼びかけるなど、コロナ禍でも安心して献血ができるよう職員一人一人が感染予防に留意し、血液の安定的な確保に努めました。

### 性別・献血種類別献血者数

献血種類	区分			割合
	男	女	計	
200mL 献血	128人	749人	877人	1.1%
400mL 献血	40,107人	14,021人	54,128人	68.1%
血漿成分献血	10,712人	5,809人	16,521人	20.8%
血小板成分献血	7,506人	496人	8,002人	10.0%
計	58,453人	21,075人	79,528人	100.0%

### 年齢別献血者数

年齢	10代	20代	30代	40代	50代以上	計
献血者数	2,108人	10,290人	12,521人	22,147人	32,462人	79,528人
割合	2.7%	12.9%	15.7%	27.9%	40.8%	100.0%

### ●献血者確保対策事業

- 普及啓発活動
- 広報活動
- 献血推進組織の育成
- 若年層献血推進対策
- 献血ルームの活性化



### ●その他の事業

- 骨髄ドナー登録の推進
- 医療機関との連携強化
- 特殊製剤国内自給向上対策事業



# 6

## 救急法等の講習

日常生活や災害時など急病やけがをしたとき、いつでも手を差しのべて手当をしたり、日頃から健康に気をつけて快適な生活が送れるよう、各種講習を展開しました。

令和3年度は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により一部の講習を中止しましたが、感染防止の対策を図りながら講習を開催するとともに、地域や職場、学校などに指導員を派遣して講習を実施しました。

なお、接触や3密を伴う実技が含まれる各種講習については引き続き中止としました。

### ●救急法

病気やけがや災害から自分自身を守り、けが人や急病人を正しく救助し、医師または救急隊などに引き継ぐまでの応急手当の知識や技術を普及するための講習です。

令和3年度については、接触を伴う実技などは避け、感染防止対策を図りながら講習を行うことができました。

また、自宅や会社からでも安心して一次救命処置を学ぶ講習の受講ができるようオンライン講習も行いました。



種別		実施回数(回)	受講者数(人)	認定者数(人)
救急法	基礎講習	22	325	325
	救急員養成講習	10	206	206
	短期講習	127	2,521	
	オンライン短期講習	10	196	
計		169	3,248	531

### ●水上安全法

水を活用して健康の増進を図り、水上の事故からいのちを守るための知識や技術を普及するための講習です。

令和3年度は感染防止対策を図りながら短期講習のみ実施し、救助員養成講習は開催しませんでした。

短期講習では、親子で参加できる講習を企画し、着衣泳等も行いました。



種別		実施回数(回)	受講者数(人)	認定者数(人)
水上安全法	救助員Ⅰ養成講習	0	0	0
	救助員Ⅱ養成講習	0	0	0
	短期講習	5	135	
計		5	135	0

### ●雪上安全法

雪を活用して健康の増進を図り、雪上の事故からいのちを守るための知識や技術を普及するための講習ですが、令和3年度は開催しませんでした。

### ●幼児安全法

子どもに起こりやすい事故の予防と応急手当の方法、病気への対応の仕方の知識や技術を普及するための講習です。

令和3年度は感染防止対策を図りながら短期講習のみ実施し、支援員養成講習は開催しませんでした。

短期講習では、乳幼児の一次救命処置の内容を含む講習を多く実施しました。



種別		実施回数(回)	受講者数(人)	認定者数(人)
幼児安全法	支援員養成講習	0	0	0
	短期講習	31	464	
	オンライン短期講習	1	79	
計		32	543	0

### ●健康生活支援講習

誰もが迎える高齢期を健やかに生きるために必要な健康増進の知識や高齢者の支援・自立に役立つ介護技術を普及するための講習です。

令和3年度は支援員養成講習は中止しましたが、令和2年度に引き続き感染症予防に関する講習内容を活用し、「新型コロナウイルス感染症から身を守り差別・偏見を防止する短期講習」を行ったり、体操動画を活用し、健康増進を図る講習を行いました。



種別		実施回数(回)	受講者数(人)	認定者数(人)	
健康生活支援講習	支援員養成講習	0	0	0	
	短期講習	災害時高齢者生活支援講習	3	46	
		上記を除く短期講習	33	564	
		オンライン講習	1	400	
計		37	1,010	0	

## ●健康生活支援講習を柱とした地域包括ケアの推進

少子高齢社会が進む中、子どもから高齢者まで誰もが安心して幸せに暮らすために、「自助」の意識の醸成と地域で支え合う「互助」により、人と人がつながる地域づくりが課題となっています。

地域住民一人ひとりが、生きがいを感じられる社会をともに創っていくことを目指して、いのちと健康、尊厳を守るための赤十字の講習事業やボランティアの力等を活用しながら、他団体との連携・協働の強化を図っています。

また、コロナ禍の外出自粛による「孤立」が、身体機能低下やうつリスクなどさまざまな状態を引き起こすことが分かってきました。そのため令和3年度は、動画「クロス体操」を制作したり、感染予防などの講習を通じて、地域の安心・安全のための支援に努めました。



### ●個別編

- ①いすdeストレッチ (11分41秒)
- ②いすde筋トレ (9分10秒)
- ③ロコモ予防deロコトレ (8分39秒)
- ④ももたろうdeリズム体操 (2分53秒)

### ●組み合わせ編

上記①～④の組み合わせ4種類を目的に合わせて選べます。



クロス体操

## 7

## 赤十字ボランティア

赤十字ボランティア（赤十字奉仕団）は、赤十字が使命とする人道的な諸活動を実践しようとする人々が集まって結成された組織です。

会員の募集、救護活動、献血の推進等さまざまな支援活動や、県内各地で地域のニーズに応じた社会活動を繰り広げており、行政が推進する地域福祉の一端を担っています。

### ●防災ボランティアの体制整備

長期にわたる幅広い災害ニーズに対応するため、社会福祉協議会が設置する「ボランティアセンター運営委員会」に参画するとともに、「災害支援ネットワークおかやま」「岡山県災害福祉支援ネットワーク推進会議」等、県下の防災関連ボランティア団体との連携にも努めています。

### ●赤十字奉仕団の育成・活動推進

新型コロナウイルスの感染防止のため大規模な研修会等の開催は見合わせましたが、令和3年度はそれぞれ以下の活動を行いました。

種別	活動内容
地域赤十字奉仕団	<ul style="list-style-type: none"> <li>●マスクを縫製し地域の福祉施設等に贈呈</li> <li>●ウクライナ人道危機救援金への協力</li> <li>●救援金の受付のための募金箱を作製し市役所等に設置</li> </ul>
青年赤十字奉仕団	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大雨災害義援金の街頭募金活動</li> <li>●動画「クロス体操」の制作に協力</li> </ul>
特殊赤十字奉仕団	<ul style="list-style-type: none"> <li>●救急法等の講習普及活動</li> <li>●視覚障がい者支援のための点訳教室</li> </ul>





# 8

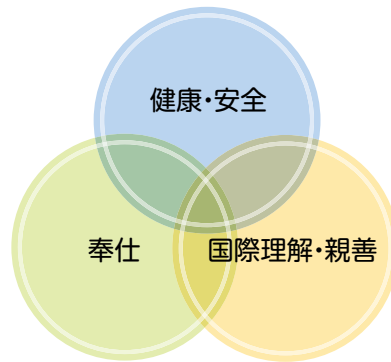
## 青少年赤十字 (JRC)

青少年赤十字 (JRC) は、子どもたちが「人のいのちと健康、尊厳」を大切に  
する人道的価値観を身につけ行動できるようになることを目指して、教育現場におい  
て教員等が指導者となり活動を展開する事業です。

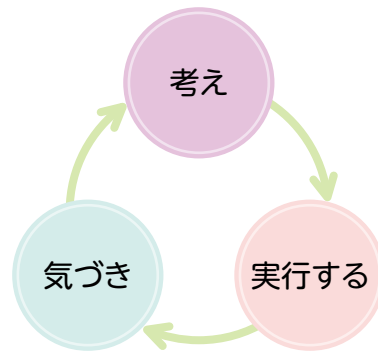
その活動は、「気づき・考え・実行する」という自主性に基づき、世界の青少年  
赤十字に共通している次の3つの実践目標を掲げて青少年の発達段階や各学校の取  
り組みに合わせた活動を展開しています。

令和3年10月3日にはオンラインにより「岡山県高等学校青少年赤十字意見交換  
会」を初めて開催し、3校から高校生12名、指導者6名が参加しました。支部職員  
による赤十字と青少年赤十字に関する説明に続き、コロナ禍における各校の青少年  
赤十字活動や課題・悩みについて共有しました。

青少年赤十字の実践目標



青少年赤十字の態度目標



### 青少年赤十字の加盟状況

種別	加盟校 (園)数	児童・生徒数 (人)			グループ数
		男	女	計	
幼稚園	2	131	127	258	11
保育所 (園)	23	994	1,018	2,012	124
認定こども園	7	386	351	737	37
小学校	49	6,758	6,312	13,070	629
中学校	31	3,621	3,479	7,100	274
高等学校	36	4,342	3,304	7,646	258
中等教育学校	1	101	52	153	9
特別支援学校	4	282	143	425	79
計	153	16,615	14,786	31,401	1,421

※中学校・高等学校加盟校数には、それぞれ一貫校3校を含む



## 9

## 広報活動

赤十字の理念や活動内容、活動資金の用途について一人でも多くの方々にご理解いただけるよう、広報活動を展開しました。

新型コロナウイルス感染症の拡大によるイベントの中止が相次ぎましたが、コロナ禍においても赤十字の活動を広く伝えるため、テレビ、新聞などに取り上げられるよう報道機関への積極的なプレスリリースを行うとともに、SNSを活用し、より幅広い世代に向けた情報発信の推進など、以下の広報活動に取り組みました。

### ● 広報資材

- 広報紙「赤十字おかやま」の発行
- 地区・分区、協力者等への「赤十字 NEWS」の配布
- 県下全域でのポスター掲示
- 会員加入促進のためのリーフレット、チラシの配布
- 事業計画書・事業報告書の作成・配布

### ● メディア広報

- CM放送(テレビ、ケーブルテレビ、ラジオ)
- プレスリリースの発信による取材・報道
- 有功会員の協賛による新聞広告
- 新聞への記事広告掲載
- SNS (Facebook、Instagram、YouTube) を活用した情報発信



### ● 広報イベント

企業・団体等主催イベントにおける赤十字ブース(車両展示、パネル展示等)を出展しました。なお、感染防止に配慮し、キッズ救護服撮影は中止し、手指消毒、車内見学の人数制限、定期的な車内消毒などを実施しました。



### ● 医療従事者応援番組制作への協力

コロナ禍で活動する医療従事者に感謝の気持ちを伝え応援しようと、県生涯学習センター「人と科学の未来館サイピア」(岡山市北区)が番組を制作し、同館のプラネタリウムで上映しました。

番組では、コロナ患者に向き合う医師、看護師らの写真と、県内の大学生などから寄せられた医療従事者への感謝のメッセージを紹介。岡山県支部では、写真の提供、メッセージの募集に協力しました。



## 10

## 会員の加入促進と活動資金の募集

岡山県支部が行う活動は、赤十字会員及び赤十字活動に賛同する方々からお寄せいただく活動資金により支えられています。

赤十字の各種活動を進めるためには、より多くの方々のご理解を得て赤十字会員の増強や活動資金の安定的な確保に努める必要があります。

例年5月の「赤十字運動月間」を中心に赤十字会員への加入勧奨を行っていますが、新型コロナウイルスの感染拡大は、令和3年度も活動資金募集に大きな影響を及ぼしました。

このため、ダイレクトメールによる協力依頼を強化したほか、寄付つき自販機やクレジットカード決済等による活動資金の募集にも努めました。

## ●活動資金の件数及び実績額

令和4年3月31日現在

地区名	件数(件)	実績額(円)
岡山市地区本部	52,253	39,703,519
倉敷市地区	49,689	35,761,870
津山市地区	9,928	9,321,993
玉野市地区	10,334	7,629,100
笠岡市地区	10,251	7,426,000
井原市地区	8,713	5,579,310
総社市地区	10,639	9,300,138
高梁市地区	6,456	5,193,900
新見市地区	4,110	3,787,500
備前市地区	4,359	3,262,400
瀬戸内市地区	1,259	1,486,500
赤磐市地区	5,499	4,619,336
真庭市地区	7,941	6,665,370
美作市地区	5,355	4,249,300
浅口市地区	5,548	4,440,778
和気町分区	3,118	2,430,600
早島町分区	1,026	668,781
里庄町分区	37	1,385,000
矢掛町分区	3,602	3,440,750
新庄村分区	194	161,000
鏡野町分区	1,982	1,872,000
勝央町分区	1,906	1,768,500
奈義町分区	1,070	1,449,500
西粟倉村分区	369	320,500
久米南町分区	1,043	827,500
美咲町分区	2,569	1,842,000
吉備中央町分区	1,320	1,288,800
支部扱い	4,724	99,448,657
計	215,294	265,330,602

※支部扱い：企業訪問・ダイレクトメール・寄付つき自販機・クレジットカード決済等

### ●全国赤十字大会

令和3年5月20日に東京都渋谷区の明治神宮会館において「全国赤十字大会」の開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、参会者の安全を最優先するため中止としました。

### ●日本赤十字社による表彰

多額の活動資金にご協力いただいた方々や赤十字事業への功労者に対する、日本赤十字社による表彰制度があります。

銀色有功章、金色有功章、社長感謝状については、令和3年10月19日に岡山県支部で開催した「日本赤十字社有功章等伝達式」において、伊原木隆太支部長から受章者に伝達を行いました。

令和3年度の受章者数は以下のとおりです。

#### 種別及び受章者数

種別		受章者数
支部長表彰状	個人	26人
	法人	28社
支部長感謝状	個人	10人
	法人	7社
銀色有功章	個人	9人
	法人	25社
金色有功章	個人	8人
	法人	22社
社長感謝状	個人	3人
	法人	10社

### ●国による表彰

多額の活動資金にご協力いただいた方々に対し、国による表彰の伝達を行いました。令和3年度の受章者数は以下のとおりです。

#### 種別及び受章者数

種別		受章者数
厚生労働大臣感謝状	個人	2人
	法人	0社
紺綬褒章	個人	1人
	法人	0社

### ●遺贈・相続財産による寄付の推進

令和元年度より開催している「赤十字終活セミナー」は、近年関心が高まっている「遺贈」や「相続財産による寄付」について学べる場として開催の要望が寄せられていましたが、令和3年度は新型コロナウイルスの感染拡大を受け、参加者の安全を最優先するため中止としました。

また、日本赤十字社が「遺贈」や「相続財産による寄付」の受け入れ団体であることを広く周知するため、山陽新聞に4回、広告を掲載しました。

## 令和3年度一般会計歳入歳出決算概算書

(単位：千円)

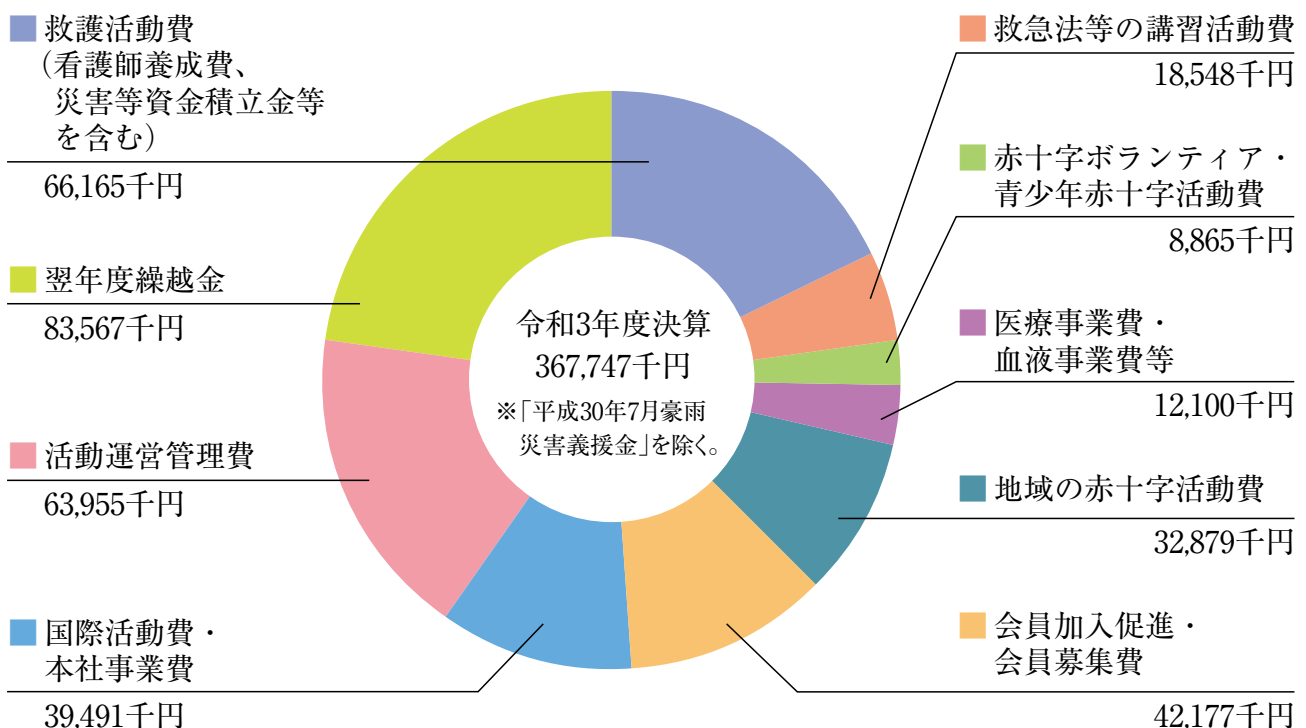
科 目	決算額
活動資金（会費および寄付金）収入	265,331
個人住民税控除対象海外救援金	10
本社交付金収入	2,364
資金繰入金収入等	11,646
各種講習教本代等雑収入	9,529
前年度繰越金	78,867
<b>歳 入 計</b>	<b>367,747</b>
救護活動費（看護師養成費、災害等資金積立金等を含む）	66,165
救急法等の講習活動費	18,548
赤十字ボランティア・青少年赤十字活動費	8,865
医療事業費・血液事業費等	12,100
地域の赤十字活動費	32,879
会員加入促進・会員募集費	42,177
国際活動費・本社事業費（個人住民税控除対象海外救援金を含む）	39,491
活動運営管理費	63,955
翌年度繰越金	83,567
<b>歳 出 計</b>	<b>367,747</b>

## ●平成30年7月豪雨災害義援金

(単位：千円)

受付額（令和3年度）	31,281	※1
岡山県災害義援金配分委員会への送金額	32,280	
（内訳） 令和2年度受付分	9,718	
令和3年度受付分	22,562	※2

※1と※2の差額8,719千円は令和4年度に送金予定





名 簿

日本赤十字社役員名簿（岡山県支部選出）

令和4年3月31日現在

役職名	氏名	公職名	就任年月日
理事	中島 博	ナカシマホールディングス株式会社 代表取締役会長	平成22年4月1日
代議員	末長 範彦	岡山トヨペット株式会社 代表取締役会長	平成18年3月1日
代議員	中島 博	ナカシマホールディングス株式会社 代表取締役会長	平成22年2月14日
代議員	松田 久	岡山商工会議所 会頭・両備ホールデ ィングス株式会社 取締役副会長	平成25年2月14日
代議員	宮長 雅人	株式会社中国銀行 取締役会長	平成28年2月14日
代議員	松山 正春	岡山県医師会 会長	平成31年2月14日

日本赤十字社岡山県支部役員名簿

令和4年3月31日現在

役職名	氏名	公職名	就任年月日
支部長	伊原木 隆太	岡山県知事	平成24年11月12日
副支部長	中島 博	ナカシマホールディングス株式会社 代表取締役会長	平成22年1月23日
副支部長	伊東 香織	岡山県市長会 会長・倉敷市長	令和3年6月17日
監査委員	宮崎 孝司	元川上町長	平成19年1月23日
監査委員	平松 卓雄	前岡山県社会福祉協議会 常務理事	平成30年10月20日
参与	西嶋 康浩	岡山県保健福祉部長	令和2年8月1日
参与	浮田 信太郎	岡山県保健福祉部次長	令和3年4月1日



日本赤十字社岡山県支部評議員名簿

令和4年3月31日現在

No.	氏名	選出地区	公職名	就任年月日
1	大森 雅夫	岡山市	岡山市長	平成25年10月9日
2	塩見 槇子	〃	岡山市連合婦人会 会長	平成25年4月1日
3	内田 通子	〃	岡山市社会福祉協議会 会長	平成22年10月26日
4	藤原 繁利	〃	岡山市社会福祉協議会 副会長	平成29年8月14日
5	伊東 香織	倉敷市	倉敷市長	平成20年5月19日
6	中桐 泰	〃	倉敷市社会福祉協議会 会長	平成29年4月1日
7	内田 浩二	〃	倉敷市社会福祉協議会 副会長	令和2年1月18日
8	土屋 紀子	〃	倉敷市婦人協議会 会長	平成30年5月29日
9	谷口 圭三	津山市	津山市長	平成30年3月12日
10	柴田 義朗	玉野市	玉野市長	令和3年11月22日
11	小林 嘉文	笠岡市	笠岡市長	平成28年4月24日
12	大舌 勲	井原市	井原市長	平成30年9月16日
13	片岡 聡一	総社市	総社市長	平成19年12月4日
14	近藤 隆則	高梁市	高梁市長	平成21年1月16日
15	戎 斉	新見市	新見市長	令和2年12月23日
16	吉村 武司	備前市	備前市長	令和3年4月24日
17	武久 顕也	瀬戸内市	瀬戸内市長	平成21年7月21日
18	友實 武則	赤磐市	赤磐市長	平成25年4月17日
19	太田 昇	真庭市	真庭市長	平成25年4月24日
20	萩原 誠司	美作市	美作市長	平成26年3月30日
21	栗山 康彦	浅口市	浅口市長	平成22年4月23日
22	草加 信義	和気町	和気町長	平成30年4月16日
23	中川 真寿男	早島町	早島町長	平成27年8月28日
24	加藤 泰久	里庄町	里庄町長	平成30年2月5日
25	山野 通彦	矢掛町	矢掛町長	平成18年6月29日
26	小倉 博俊	新庄村	新庄村長	平成26年9月8日
27	山崎 親男	鏡野町	鏡野町長	平成19年2月14日
28	水嶋 淳治	勝央町	勝央町長	平成23年9月12日
29	奥 正親	奈義町	奈義町長	平成31年2月15日
30	青木 秀樹	西粟倉村	西粟倉村長	平成23年9月12日
31	片山 篤	久米南町	久米南町長	平成28年7月24日
32	青野 高陽	美咲町	美咲町長	平成30年12月9日
33	山本 雅則	吉備中央町	吉備中央町長	平成24年10月24日
34	松田 久	支部長	岡山商工会議所 会頭・両備ホールディングス株式会社 取締役副会長	平成25年2月14日
35	松田 正己	〃	株式会社山陽新聞社 代表取締役社長	平成25年2月14日
36	野崎 泰彦	〃	岡山県経営者協会 会長	令和4年2月14日
37	藤森 徹	〃	RSK山陽放送株式会社 取締役副会長	令和3年6月29日
38	三宅 啓一	〃	株式会社大本組 代表取締役社長	令和3年4月1日
39	田村 正敏	〃	岡山県商工会連合会 会長	令和3年5月30日
40	大西 泰子	〃	岡山県婦人協議会 会長	平成30年5月28日
41	梶原 美砂子	〃	岡山県商工会議所女性会連合会 特別顧問	平成10年2月14日

# 地域赤十字奉仕団名簿

令和4年3月31日現在

No.	奉仕団名	結成年月日	委員長氏名	就任年月日	分団数	班数	団員数(人)		
							男	女	計
1	岡山市赤十字奉仕団	昭和21年12月6日	塩見 楨子	平成25年4月1日	35	466	0	6,766	6,766
2	岡山市御津赤十字奉仕団	昭和28年5月1日	齊藤 節子	令和3年4月1日	1	6	0	141	141
3	倉敷市倉敷赤十字奉仕団	昭和30年4月1日	大矢 禎子	平成19年4月1日	7	14	2	142	144
4	倉敷市児島赤十字奉仕団	平成11年4月1日	中村 榮子	平成31年4月1日	0	6	0	50	50
5	倉敷市玉島赤十字奉仕団	昭和31年4月1日	瀧澤 英子	平成19年4月1日	3	0	0	50	50
6	倉敷市真備赤十字奉仕団	昭和40年5月1日	松王 資子	平成28年4月1日	1	4	0	88	88
7	津山市赤十字奉仕団	昭和39年5月1日	(選出手続途中)		0	0	0	29	29
8	玉野市赤十字奉仕団	昭和32年4月1日	平木 由美	令和4年2月16日	1	0	8	5	13
9	笠岡市赤十字奉仕団	昭和42年4月1日	吉岡 祥子	平成27年4月25日	4	4	0	150	150
10	井原市赤十字奉仕団	昭和32年1月1日	内田 容子	令和3年4月1日	0	11	581	124	705
11	総社市赤十字奉仕団	昭和32年4月10日	山口 久子	平成22年6月18日	11	0	12	770	782
12	高梁市赤十字奉仕団	昭和30年4月1日	田村 順子	平成30年4月27日	3	0	0	240	240
13	高梁市有漢町赤十字奉仕団	昭和31年5月21日	佐分利 睦子	平成30年5月27日	0	0	3	33	36
14	高梁市成羽町赤十字奉仕団	昭和38年9月6日	那須 閑子	令和2年4月1日	1	4	0	105	105
15	高梁市川上町赤十字奉仕団	昭和44年10月6日	中山 美江	平成22年5月7日	0	0	7	91	98
16	新見市赤十字奉仕団	昭和31年12月1日	池永 繁子	平成22年4月1日	0	0	0	95	95
17	新見市大佐赤十字奉仕団	平成14年12月17日	平田 国子	平成19年4月26日	0	0	7	26	33
18	新見市神郷赤十字奉仕団	平成19年4月1日	杉本 千恵子	令和2年4月1日	1	1	1	92	93
19	新見市哲多町赤十字奉仕団	昭和51年2月20日	小川 洋子	令和2年7月16日	1	3	5	44	49
20	新見市哲西町赤十字奉仕団	平成14年4月22日	浅井 郁三	令和3年11月1日	0	0	29	57	86
21	備前市赤十字奉仕団	平成12年7月12日	立川 涼子	平成31年4月1日	7	0	0	139	139
22	赤磐市赤坂赤十字奉仕団	昭和39年4月1日	小西 清美	平成22年4月1日	1	1	0	71	71
23	真庭市赤十字奉仕団	昭和43年4月1日	廣岡 敬子	令和3年8月1日	3	0	1	122	123
24	美作市勝田赤十字奉仕団	平成18年4月1日	松本 基	平成28年12月1日	1	16	13	3	16
25	美作市美作赤十字奉仕団	昭和39年9月1日	粟井 澄子	平成26年6月1日	0	0	2	9	11
26	美作市作東赤十字奉仕団	平成3年4月1日	山本 文子	平成15年4月1日	1	2	0	58	58
27	浅口市金光赤十字奉仕団	昭和39年4月1日	山田 直子	平成20年4月1日	12	21	0	109	109
28	浅口市鴨方赤十字奉仕団	昭和38年5月6日	筒井 由紀子	平成28年4月1日	0	0	0	101	101
29	和気町赤十字奉仕団	昭和31年6月1日	小金谷 香代子	平成26年4月1日	1	1	0	30	30
30	早島町赤十字奉仕団	昭和46年12月20日	河田 智子	平成18年4月1日	1	0	0	95	95
31	里庄町赤十字奉仕団	平成14年1月8日	山田 恵津子	平成20年4月1日	0	17	0	803	803
32	勝央町赤十字奉仕団	昭和28年4月10日	笠尾 和子	令和元年12月3日	1	1	20	14	34
33	美咲町赤十字奉仕団	昭和32年9月1日	大西 泰子	平成17年3月22日	0	3	0	370	370
34	久米南町赤十字奉仕団	昭和59年4月1日	片山 朋子	平成30年4月1日	3	3	0	159	159
合計					100	584	691	11,181	11,872

## 青年赤十字奉仕団名簿

令和4年3月31日現在

No.	奉仕団名	結成年月日	委員長氏名	就任年月日	団員数(人)		
					男	女	計
1	岡山県青年赤十字奉仕団	昭和28年5月1日	関野 美幸	令和3年5月14日	4	5	9
2	岡山赤十字看護専門学校学生奉仕団	昭和46年2月16日	白濁 美奈	令和3年4月5日	8	111	119
3	川崎医療福祉大学学生赤十字奉仕団 R.C.Y.Will	平成3年12月15日	池田 愛弥子	令和4年1月14日	7	46	53
合計					19	162	181

## 特殊赤十字奉仕団名簿

令和4年3月31日現在

No.	奉仕団名	結成年月日	委員長氏名	就任年月日	団員数(人)		
					男	女	計
1	岡山県赤十字点訳奉仕団	昭和42年7月15日	宇津木 順一郎	昭和46年7月15日	5	16	21
2	日本赤十字社岡山県支部安全法奉仕団	平成9年6月1日	茅野 匠	令和3年6月1日	46	48	94
3	岡山ライフセービング赤十字奉仕団	平成11年6月8日	熊澤 一彦	平成30年5月19日	28	8	36
4	岡山県青少年赤十字賛助奉仕団	平成16年4月20日	難波 宏明	令和3年4月1日	26	4	30
5	岡山赤十字災害支援奉仕団	令和2年5月8日	山本 松美	令和2年5月8日	66	30	96
合計					171	106	277

## 岡山県赤十字有功会役員名簿

令和4年3月31日現在

役職名	氏名	公職名
名誉会長	池田 厚子	
会長	末長 範彦	岡山トヨペット株式会社 代表取締役会長
副会長	松田 久	両備ホールディングス株式会社 取締役副会長
副会長	永山 久夫	岡山プラザホテル株式会社 代表取締役社長
副会長	恵谷 龍二	株式会社ケイコーポレーション 代表取締役社長
会計監査	平田 啓子	西日本株式会社 代表取締役
会計監査	平松 晃弘	平松エンタープライズ株式会社 代表取締役社長
理事	全本 親民	株式会社ソフィア 代表取締役
理事	高木 晶悟	株式会社トマト銀行 取締役社長
理事	千原 行喜	岡山県遊技業協同組合 理事長
理事	高田 美紀子	岡山商工会議所女性会 会長
理事	尾崎 茂	菅公学生服株式会社 代表取締役社長
理事	原田 育秀	株式会社中国銀行 代表取締役専務
理事	三宅 啓一	株式会社大本組 代表取締役社長
理事	藤森 徹	R S K山陽放送株式会社 取締役副会長
理事	馬屋原 章	岡山県貨物運送株式会社 取締役副社長
顧問	岡崎 彬	岡山ガス株式会社 代表取締役会長
顧問	大原 謙一郎	公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 理事・会長
顧問	木住 勝美	株式会社天満屋 代表取締役会長
顧問	松田 正己	株式会社山陽新聞社 代表取締役社長
幹事	上原 毅	日本赤十字社岡山県支部 事務局長



 **Facebook**



 **Instagram**



 **YouTube**



**日本赤十字社**  
Japanese Red Cross Society

岡山県支部